



編集発行 第22号
群馬県立桐生工業高等学校
桐生市西久方町1-1-41
TEL (0277) 22-7141
FAX (0277) 46-4703
同窓会事務局 編集部
印刷 株式会社大間々印刷

会長挨拶

クラス会開催の
ご一報を...
会長 蛭間謙次



同窓会員の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのことと推察申し上げます。また、各位には桐工同窓会の発展のため、日頃からご協力を賜り厚く感謝申し上げます。就任以来3年目になります。この間、事業等も順調に推移し今日に至っており、関係各位の温かいご理解とご協力を深く感謝申し上げます。

すでにご案内のとおり、同窓会の目的は会則の第五条に会員相互の親睦と母校との連携を保ち、母校の教育の振興に寄与することあります。会員の皆様には、この目的達成のため、より一層のご理解と協力をいただきますようお願い申し上げます。さて、今年と同窓会名簿、平成22年版が発行されましたが、すでに多数の方々がご覧になっていることと存じます。機会があれば、ご意見やご感想等いただければ有難いと存じます。すでに同窓生の間では各科目と

校長挨拶

同窓会の皆様へ

校長 豊島卓司



同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと拝察申し上げます。日頃からの母校に対するご支援・ご協力に對しまして、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

母校も今年で創立76周年を迎え、平成26年には記念すべき創立80周年となります。諸先輩が築いてこられた良き伝統を踏まえつつ、地域産業の担い手としての生徒の育成に努めてまいり所存であります。

ところで、昭和59年に「桐工50年史」上巻が、さらに平成元年には続編ともいふべき、同下巻が同窓会諸兄のご尽力により刊行されました。ご承知の通り両巻とも膨大な資料をもとに、綿密に母校の歴史を再現し、大変見応えのあるものであります。このことを踏まえ、創立80周年には、50年史以降の30年間の歩みを振り返り、文字による記録として後世に残すことに意義があると考えます。同窓会役員様とも相談の上、校内に「桐工80年史刊行委員会」を立ち上げさせていただきました。今年度から資料の収集や編集方針等の策定などの準備に入らせていただきます。長丁場ではありますが、80周年記念には刊行の運びとなる予定であります。編集に係るアドバイザーや資料収集等について格段のご協力をお願い申し上げます。さて、本校生徒諸君の状況であります。例年通り資格取得等に積極的に取り組んでおります。全国工業高等学校長協会が主催する「ジュニアマイスター顕彰」における顕彰者数は、今年度前期では35名の申請数となり、全国第15位(6255校中)と全国トップレベルの実績を残しました。また、6月1日に東京で開催された「電波の日」記念式典上で、本校電気科2年生が昨年度の第2級陸上特殊無線技士試験で、受験者39名全員が合格したことが高く評価され、総務省関東総合通信局長様から表彰されました。高校では桐工のみ受賞の快挙であり、大変名誉であると同時に、日頃の指導の成果が評価されたことに自信

を深めている所であります。さらに、定時制課程では各部活動の活躍が顕著でありました。軟式野球部は3年連続全国大会に出場し、2年連続ベスト8の快挙を成し遂げ、陸上競技部は個人、団体で出場、バスケットボール部も全国大会初出場と近年にない生徒の活躍が光りました。申すまでもなく、本校生徒・職員が実績を残すことができるのは、母校を卒業された同窓会諸氏をはじめとする関係各位のご支援の賜物であることは言うまでもございません。今後とも暖かいご協力をお願い申し上げます。

**正田順吉先生
百歳記念祝賀会開催**
昭和23年W科卒 米山 稔

1年の19年1月厳冬の日、桐生工専の池に誤って頭から落ちた学友に、自分の服を着せて帰宅させた話は今も語り草になっています。先生は生徒を優しく愛してくれました。母校桐工の先生で百歳を迎えた方は初めてと、先生のお喜びは私たち教員にとっても、自分の親が百歳を迎えたような喜びです。先生何時までも元気でいてください。私達も先生の元気を頂いて、これからの人生を頑張ります。正田先生百歳おめでとうございませう。

正田順吉先生とは...
1910年(明治43年)9月21日生まれ。桐工では紡織科(1年間は機械科)教諭として1942年(昭和17年)から1972年(昭和47年)まで約30年間勤務。1962年(昭和37年)から9年間教頭も務めた。体は小柄だが、鼻の下に生えるちよび髭から、あだ名は「將軍」。現在は「目が白内障になり、あまり自由に動けなくなった」と話していたが、10分以上立ったまま、かつての教員に語りかける姿は、昔の「將軍」を思い出させるものであった。



正田順吉先生 百歳記念祝賀会
平成22年9月12日

総会

● 期日
平成 22 年 6 月 19 日 (土)

● 会場
桐生市市民文化会館
4 階 スカイホール

右記の日程で 81 名の会員の方々に お集まりいただき、今年度は一部・総会、一部・懇親会の二部構成で開催されました。



一部総会は、演壇脇に新調された三代目校旗が凛々しい輝きを放つなかで、蛭間会長を議長に平成 21 年度事業報告、会計報告、監査報告、支部活動状況報告を始め、平成 22 年度事業計画案、予算案、役員改選案が順次承認されました。

役員改選では、副会長田邊賢二氏 34 E、黒澤清市氏 43 M、常任幹事青木克孝氏 37 D、松井芳夫氏 43 E2 の 4 氏が承認されました。

同窓会表彰者として春の叙勲を受賞された堀越誠一郎氏 32 W、中村清氏 33 M の 2 氏に銀盃、同窓会功労者として副会長を退任された小池正孝氏 36 D、橋内俊氏 38 W の 2 氏に感謝状が会長よりそれぞれ贈られました。

二部の懇親会では、昨年公演会、懇親会を盛り上げていただいた女性ボーカル・ユニット『M』の夏川陽子さんがソロ出演され熱唱されました。艶やかな心に響く歌に出演者一同魅了され、本会も一層盛り上がり大いに親睦を深めることができた。最後に恒例となった校歌の大合唱で、すべての日程を終了いたしました。



親善ゴルフ大会

桐生カントリークラブ

今回で 19 回目を迎え恒例となった「親善ゴルフ大会」が 8 月 25 日(水)、桐生カントリークラブで行われました。本年も 163 名と、県内はもとより県外支部からも多くの参加があり、盛大に開催されました。

大会結果を報告いたします。

◆ 団体戦 (上位 5 名、ネット合計)

優勝 笠懸支部 362・8

準優勝 大間々支部 363・2

3 位 第 8 支部 365・8



優勝支部 笠懸

◆ 個人戦 (ネット)

優勝 一場完次 70・4

準優勝 小保方英児 70・6

3 位 浅野昭二 70・8



個人優勝 一場完次氏

◆ ベストグロス賞

一般 井沢一彦 71・0

シニア 高草木栄一 71・0

エイジシユート(桐生 CC 特別賞)



ベストグロス賞 一般 井沢一彦氏

松本先生を偲んで

44 A 星野昭司

松本先生の訃報を聞いて通夜にかけつけた。駐車場は当然、その周辺すら駐車場の場所を探すのに苦労した。参列した人の多さに、ただ驚かされた。

松本先生に関しては、とても一言では言い表せない。まずは高校軟式野球である。松本先生は関東地区の役員としても信頼を得ていたし、その役割は関東連盟の発展の礎であったことも、また事実である。特に生徒に対しての指導に関しては、私など勉強させられる場面は多かった。また、卒業生からの信頼も厚く、生徒が大人になっても、尚その関係は続いていた。

次に挙げたいのは先生の平和教育である。夏の高校野球シーズンであっても、その合間に長崎や広島に出かけていた。先生の平和に対する思いと教え子の将来の為に身を粉にしていたように思う。平和に対する先生の思いが忘れられない。今でも知人に会えば松本先生の話題で尽きることはない。

先生、安らかにお休みください。



ベストグロス賞 シニア 高草木栄一氏

支部活動報告

第 11 支部 書記 砂 孟 宏

支部会員の氏名・住所・電話番号等を正確に把握し、支部名簿として整備しておくことは、支部の会員連絡・配布物・集会にとって欠かせない支部役員・幹事の基本的な仕事である。

わたしたちの支部では、5 年ごと改訂される同窓会名簿の版下原稿を 12 地区(町会単位)に分け、最新の住宅地図と照合して会員の所在をできるだけ正確に調べる。ここまでは書記を中心に少数の役員が担当する。次の段階では、12 地区の常任幹事・幹事が実態に即して名簿の仕上げをする。最終段階では、正誤等を集約して修正箇所を訂正し支部名簿としてまとめ上げる。このような手順で整備した地区別名簿を各地区の常任幹事の手元で役立てられるのは、今回は 10 月となる。

笠懸支部

支部長 杉山英行

笠懸支部「工」は会員相互の友爱と親睦をはかり活動するために年会費 10000 円で活動を行っております。例年 7 月の第 1 土曜日に支部総会と懇親会を開催してありますが、毎年多くの参加者で賑やかで盛況な懇親会になっています。

年間を通して随時役員会議を開いて 1 杯やりながら色々と情報交換しながら、支部活動の検討をすることも楽しみにしています。新しい取り組みとして町内にある鹿田山の林道の「ゴミ拾いと清掃作業」を 11 月に行つて良い汗をかいた。

静岡支部

事務局長 野竹康和

我が静岡県支部は、同窓会県外支部として埼玉・関西・中部支部と第 4 番目の支部として発足しました。本年で満 13 年、支部総会も 14 回を重ねてきました。会員数は他の支部と比べ最も少数の支部ですが、そこは「さんしょは小粒でも...」とこつこつとあるように、ピリリとしまつて、まとまりがあり、仲の良い支部です。広報は設立以来、毎年 1 回発行し、第 14 号を数えるに至っています。また、総会は中部支部との連携もとり、いつしか合同の総会も 9 回目となりました。今後も続いていくと思っております。本年の第 14 回合同総会では、静岡の大井川上流の寸又峡温泉で開催しました。本部より蛭間会長、豊島校長、百海事務局長、関西支部より松島幹事をお迎えして、盛大かつ楽しい総会となりました。大井川の渓谷を S-L 列車に乗って旅をしたことも忘れられない思い出です。次回は中部地域です。



学校だより ①

開校記念式典

○演題 「いかす自分を見つけよう」
 ○講師 寄尾憲司先生(昭53A)

本年度の開校記念式典は、本校建築科OBで(株)リーフ・クリエイティブ代表取締役の寄尾憲司先生にお願いいたしました。今回「いかす自分を見つけよう」という演題で講演して頂きました。

寄尾先生の経験から生徒たちに様々な言葉を頂きました。

今回のテーマである「いかす」の言葉には複数の意味があり、「生かす」「活かす」「自分の命を生かす」などの意味があるそうです。その「いかす」という言葉から、しないほうがいいこととして「苦勞・努力・勉強」と話されていて、この言葉は、ただサボっていいという軽い言葉ではなく、「自分の好きなことをやるためには、どんなことも苦にはならない」という裏付けがあったように感じられました。

このことから生徒には「好きなことを一生懸命やりなさい」と話し、「好きなことが見つからなかったら本屋へ行き本を買ってきなさい」、「他人はまず外見で人を判断する。だから格好悪いのはダメ」、「ものを大事にしましょう」など好きなことができ



るために、やるべきことを話して頂きました。

定時制の現況について

定時制教頭 齋藤 正章

同窓生の皆様、定時制教育におきましても変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

昨年より報告いたしました。今年も軟式野球部は全国大会でベスト8に入ることができました。陸上部は7名(昨年4名)が国立競技場で心地よい汗を流しました。バスケットボール部は全国大会初出場を果たし、東京体育館での初戦も見事に突破いたしました。同窓会からはいつも有形無形の援助を頂戴しており、心より感謝申し上げます。また今年には全国大会壮行会に初めて全日制の生徒(生徒会・応援団・吹奏楽部)が参加し、大いに盛り上げてくれました。その様子は「桐生タイムス」にも紹介されました。

さて本校の在籍者数は昨年とほとんど変わらず86名(1年22名・2年23名・3年18名・4年23名)で、働き、勉強し、スポーツにと汗を流しています。

今年度の特徴としては、進路指導部を立ち上げ、4年間を見通した進路指導のスタートを切ったこと、数学と工業数理基礎に

T・T(ティームティーチング)



を導入したことです。いろいろな面で工夫を凝らしながら生徒・職員共々頑張っております。今後とも温かく、そして厳しくご指導・ご助言くださいますようお願い申し上げます。

機械科

近年、施設設備の予算が厳しくなっている中、NCフライス盤・六尺旋盤が10台、立型マシニングセンタが導入されました。

おかげさまで実習や資格指導が充実し、技能検定3級(普通旋盤作業)では9名全員が合格し、技能検定3級(マシニングセンタ作業)では28名85%が合格しました。



技能検定を中心に、資格指導に力を入れ、平成22年度の前期でジュニアマイスターゴールドが8名(桐工で13名中)、シルバーが14名(桐工で22名中)認定されました。今後とも生徒の更なる向上にためていきたいと思っております。

電気科

電気科は、第二種電気工事士の資格をはじめ、多くの資格に挑戦しています。ジュニアマイスターでは、昨年度、シルバー18名、ゴールド4名、特別表彰1名と頑張りました。今年度も、多くの生徒が称号・表彰を目指して勉強に励んでいます。

4年前からは、特殊無線技士の資格にも挑戦を始めました。初年度は、1年生全員が第三級陸上特

殊無線技士に合格。その後、目標を上げながら、現2年生が1年次には、全員が第二級陸上特殊無線技士に合格。他にも航空特殊無線技士や第二級海上特殊無線技士にも多数合格。これらの実績が評価され、6月1日「電波の日」に総務省より関東総合通信局長賞をいただくことができました。(2)年度は、1個人・5団体が表彰され、高校では桐工が唯一。桐生タイムスや上毛新聞でも紹介していただき、生徒達もとても喜んでいました。今後、電気科職員一同、生徒達のさらなる向上に努めていきたいと思っております。

建設科

昨年度からの桐生工高建設科の実績を紹介したいと思います。まずは、土木コース。ものづくりコンテスト(測量部門)です。県大会において本校から2チームが出場し、優勝したチームが関東大会に出場し、惜しくも2位となり全国大会には出場できませんでしたが、生徒のがんばりが光りました。次に学校に訪れた場合、校門近くの校内案内板をご覧ください。3年がかりの精密な測量の結果をまとめました。このように測量の成果が具現化されました。



建築コースでは、市役所と建築士会の協力を仰いで簡易耐震診断を実施しました。市民の方から図面を見せていただき、地震に耐え

られるかコンピュータで診断するものです。また、近代化を支えた建築物の実測調査も11年目を迎え、今年度はわたらせ渓谷鐵道の駅舎と大間々の蔵屋敷に集中して調査を行っており、成果を所有者に還元しています。

染織デザイン科

「織の都、桐生」で「染め、織り、デザイン」を学べることは素晴らしいことであり、浪漫溢れることです。

桐工には「染織デザイン科」が設置されていて、簡単なデザイン画や織物から、長さ5mを超える大作のタペストリーまでセンス溢れる作品を制作し、それらを年一回市民に公開しています。「染織デザイン科」として地域社会に向け、さらに情報を発信していくことも、今後の大きな課題です。

今年度、新しい試みとして「学校開放講座」を8月19日から24日まで、土・日を除く4日間実施しました。「卓上織機でコースターをつくるうー」という題で講座を開いたところ、桐生市、みどり市から老若男女に関わらず、多数の方々で講座に応募して下さいました。また、桐生祭りでは「桐生新町染め流し」に染織デザイン科の2年生がお手伝いとして参加させていただき、1年生はジャンボパレードに参加しました。まさに、「地域の中の学校」を実感させられたひとときでした。



学校だより ②

部活紹介

定時制陸上部

短距離3名、長距離3名、跳躍3名、投てき1名の計10名(内女子1名)で授業が終わった夜9時頃から50分位、週3回の練習で春の全国大会県予選と秋の高校対抗選手権において基礎練習と技術向上に励んでいます。

全国定通制陸上競技大会へ、11年連続で出場者を出し、今回も400m・800m・1500m・走り高跳び・走り幅跳び・1600mリレーで出場権を得る事ができました。入賞をこ夢を追う者予選突破や自己記録更新を目標とする者、各々が仕事と勉強に疲れた身体で日々努力を重ねています。また、2月の堀マラン等にも出場し、年間を通して活動しています。



定時制軟式野球部

定時制軟式野球部は、毎年部員13名位という状況が続いています。火・木の夜9時から10時半頃まで校庭において基礎練習を行い、週末は練習試合や大会でチームワークの向上を図るなど充実した活動を行っています。

今年で3年連続8回目の全国大会出場となりましたが、全国大会

陸上部

では毎回天理高校が大きな壁となり本校の上位進出に立ち塞がってきます。同じ高校生であり、力の差を感じる事は無く精神的な面が勝敗の分かれ道に繋がっているようです。この課題を克服しながら、打倒天理を目標に日々練習に励んでいます。

秋には、来年度のシード権を決める大会もあるの、後輩達の為に有終の美を飾り1年を戦い終えたいと思います。



定時制バスケット部

定時制バスケットボール部は、他の部と兼部しながら活動に参加する生徒で構成されています。そのため、練習内容は少人数で行うことができるミニゲームやシューティング練習が中心です。初心者の生徒が多いため経験不足な面はありますが、継続して練習に励む中で少しずつ力をつけてきています。

その成果として、今年度は県大会で初優勝し、全国大会初出場ながら初戦突破も果たすことができました。定時制バスケットボールの聖地、東京体育館での1勝は、チームとしての成長に大きくつながっています。

現在は、練習に對してますます意気盛んになってきています。来年度も東京体育館でプレーできるように日々練習を続けていきます。



事務局だより

同窓会報「桐生」は、以前各支部ごとに配付をお願いしていましたが、平成18年の第18号より郵送に切り替えました。初年度は卒業生のうち、住所判明の約1万5000名に、2年目は1万1000名に、3年目は1万名に、4年目も昭和63年卒業までの9800名に送ることができました。協力が發送経費を下回ったため、郵送部数を減らさざるを得ませんでした。平成22年の第22号は全員の約3分の1の7500名(昭和53年卒業まで)の方にしか送ることができません。郵送できない若年層の方々に以前と同じく各支部に配付依頼をいたしました。(参考：全会員へ郵送するには發送経費だけで180万円ほどかかります)

硬式野球部

部員44名(1年10名、2年22名、3年12名)の硬式野球部は、保護者会、OB、地域の方々などのあたたかいご支援の下、日々充実した活動を行っています。平日は20時過ぎまで基礎、実戦の反復練習を行い、週末等の練習試合や年間3回の公式戦に向けて日々精進しています。また、シーズンを通じて「朝トレ」と称した心身の鍛錬にも精力的に取り組んでおります。



少林寺拳法部

部設立6年目を迎えます。平成21年4月に、愛好会から少林寺拳法部として認められ、現在に至っています。今年4月に全国高体連に正式加盟し、3年後位にはインターハイ種目になる予定です。県下には百名程の拳士が毎日修行に励んでいます。平成18年より毎年関東大会に出場、今年も6月に行われた第41回関東高等学校少林寺拳法大会に、3年電気科



偉大な先輩方が残した実績は残念ながら、もはや過去の栄光になってしまっています。今後も桐生野球の伝統を胸に、古豪復活を目指し、全力を尽くしていきます。これまでと変わらぬご支援をどうかよろしくお願いいたします。



編集後記

本年度も、桐生22号をここに発行することができました。今年度は定時制で活躍をした3つの部活

◆ゴルフ運営委員交代

- 36W 赤石 昇 (第1支部)
- 40E2 森田 良徳 (第12支部)
- 43W 向田洋一郎 (第15支部)
- 39E 笠原 悦男 (太田支部)
- ◆弔慰・顧問 17W12 龜山憲明様 (元県議)

8月14日・84歳で逝去
※6月1日・同窓会名簿発行

戦後初の甲子園大会(西宮)

山室寛之著による「野球と戦争」が6月に発刊されました。昭和21年夏初出場の母校3選手も取り上げていただいています。是非一読ください。

動紹介を掲載しました。全日制・定時制とも今後の活躍が期待されます。今後より良い報告ができるよう努力していきますので、ご協力よろしくお願致します。